



こくた氏 「野党は政権」と後押しを

日本共産党京都府委員会主催の「市民と野党共闘の今後を考える懇談会～参議院選挙を振り返って」が6日、京都市中京区の党府委員会事務所で開かれ、35人が参加。昨年の京都府知事選、参院選などとともにたたかった市民らとざっくばらんに意見交換しました。穀田恵二衆院議員、倉林明子参議院議員、府議団・京都市議団が参加しました。

●共産党への要望、忌憚なく

冒頭、渡辺和俊京都府委員長があいさつし、懇談会の趣旨を説明。倉林選挙事務所の次長を務めた守田敏也さんが問題提起し、参加者がざっくばらんにご意見や要望をのべました。参加者からは、「まだまだ安倍支持率は高い。そうはいつでも政治はかわらないとあきらめる層にどう訴えるか」「若者の政治参加へのアプローチは」「野党連合政権というが、どういう政策的合意を行い、国民に打ち出すのか」などの意見や疑問、さらに共産党に対する要望も忌憚（きたん）なく出されました。

●この4年間、野党共闘は格段に前進

これを受けて穀田氏は、中間と最後につぎのように発言しました。「もともと安保法制関連法が強行された直後の共産党の各野党への申し入れは、安保法制廃止のためには野党連合政権が必要という提起だった。当時の各野党の受け止めが弱かったのは事実。しかし、この4年間で野党共闘は格段に前進した」と指摘。「国会での野党の共同も重視しているが、沖縄・辺野古にしても秋田のイージス・アショアにしても、現地・現場と一緒に調査に行くことが決定的だった。『憲法を変えるより、まずは日米地位協定を変えないとなあ』と一致するようになった」と紹介。「衆院大阪12区の補選の段階では、無所属で立候補した宮本岳志候補の応援に来てくれた国会議員は格段に増え、そのお一人おひとりが様々なしがらみを乗り越えて応援に駆けつけるまでになっている。野党の共同が連帯感を生み、連帯が新たな信頼関係を醸成している」と強調しました。

最後に「共産党も自己変革し、野党共闘から進んで、野党連合政権をめざしている。市民のみなさんもパッション、情熱をもって一緒に『野党は政権』とたたかい、後押しいただきたい」と、しめくくりました。倉林氏は国会で奮闘する決意を語りました。

10.11(金)近畿いっせい宣伝
消費税廃止・5%引き下げの
声を大きく広げましょう

近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中】

No. 25(2019.10.8)